



光貞小学校だより



令和5年1月26日
 北九州市立光貞小学校
 校長 西村 直美

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

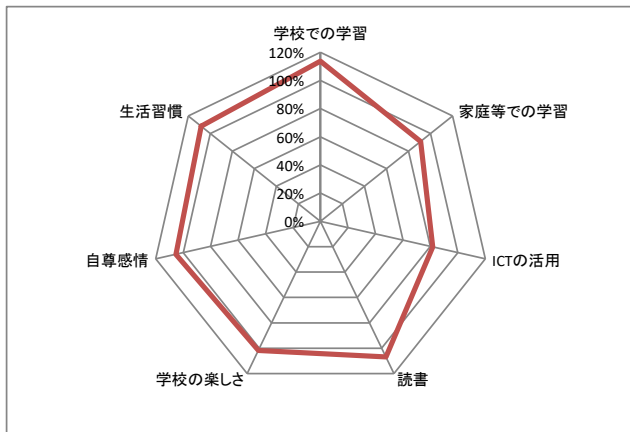
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	○文章に対する感想や意見を伝えあい、自分の文章のよいところを見付けたりする問題の正答率が高い。 ●「録画」「反省」など、学年別漢字配当表に示されている既習の漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。	上回っている
算数	○「数と計算」「図形」領域で、処理の仕方を考察し、記述する問題の正答率が高い。 ●数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。	上回っている
理科	○器具の正しい名称や正しい扱い方を答える問題の正答率が高い。 ●実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題に課題がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○「総合的な学習の時間では、課題をたて、ICTなどを活用して情報を集め・整理し、調べたことを発表する取組をしている」という割合が全国平均より高い。
 ○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、全国平均より高い。また「友達と協力するのは楽しいですか」でも全国平均より高いことから、人との関わりから協力するよさや人の役に立ったという道徳性が育成されてきている。
 ○授業中に「工夫して発表した」「進んで取り組んだ」「自分の考えをまとめる活動をした」の割合が高く、授業改善を進めた成果が出ている。
 ○「普段、1日あたりどれくらいテレビゲームをしているか」という項目に対して、「2時間以上」としている児童が半数以上おり、全国平均より高いことから、スマートフォンや携帯を使ったゲームの時間が長いことがわかる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○「問い」を核に、自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりするなど、主体的な学びが発揮できる授業展開をより一層努める。

○国語科を中心に、目的や意図に応じた言語活動を充実させ、(例:「分かりやすい文章とは」を検討させていく等)実感を伴った知識を定着させながら、「できた」「分かった」「面白い」という情意面を高めていく授業に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○今後も、家庭学習の充実や生活習慣のあり方などについて、「学校通信」「学級通信」等で、保護者に協力を呼び掛けたり、学級活動などで取り上げ話し合わせたりすることで、児童自身が自分の生活習慣を見直す契機を積極的につくっていく。
 ○ICTの活用をさらに推進するとともに、情報リテラシーについても継続的に指導を行いながら児童の資質・能力を高める。

